

ネットワークの強化

地域の発展と、暮らしや利便性の向上に貢献する
より安全で、使いやすいネットワークへ



新規建設

ひと、モノ、未来をつなぐ

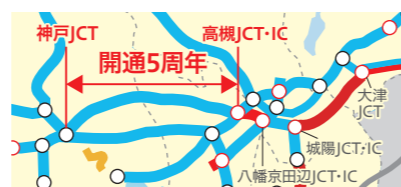
交通混雑の緩和、交通安全の確保、災害時の代替機能強化や地域活性化などを目的として、高速道路の建設事業を推進しています。

建設進捗情報



新名神高速道路（高槻JCT・IC～神戸JCT） 開通5年の整備効果

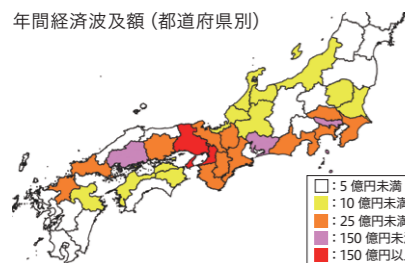
2018年3月18日に新名神高速道路(高槻JCT・IC～神戸JCT) 43.1kmが開通してから5年を迎え、名神・中国道とのダブルネットワーク化等による整備効果が現れています。



経済波及効果

- ・新名神開通に伴う経済波及効果は全国で年間1,500億円以上
- ・雇用者数増等、地域の雇用誘発効果も

年間経済波及額(都道府県別)



各都道府県公表の産業関連分析に基づく

交通渋滞の解消

- ・名神・中国道(高槻JCT・IC～神戸JCT)の渋滞が51%減少
- ・繁忙期の所要時間のばらつきが38分→4分に減少(定時性が向上)



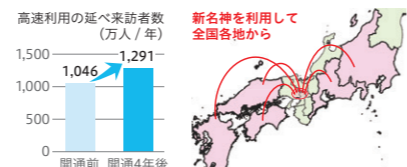
新名神開通前の中国道 宝塚東トンネル付近の渋滞

沿線地域の利便性向上

- ・自宅から15分以内に高速道路を利用できる方が約39万人増加

地域活性化

- ・高速道路を利用した開通区間沿線地域への来訪者が約20%(約245万人)増加



出典:「混雑統計」©ZENRIN DataCom CO.,LTD

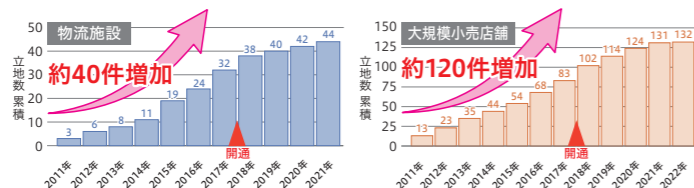
リダンダンシー効果

- ・名神・中国道とのダブルルート形成により、事故通行止めを回避
- ・最大約30km予測の渋滞を回避し、中国道リニューアル工事が可能に



物流への貢献

- ・高槻JCT・IC～神戸JCT間を通過する大型車の9割が新名神を利用(東西の物流を支える重要な道路として機能)
- ・沿線で物流施設が約40件、大規模小売店舗が約120件増加



出典:日本立地総覧 ((有)日本立地ニュース社) 出典:大店立地法届出(経済産業省)
物流施設・大規模小売店舗の累積立地件数

整備効果の詳細



新規建設区間の概要

① 新名神高速道路

大津JCT～城陽JCT・IC 25.1km
八幡京田辺JCT・IC～高槻JCT・IC 10.7km

整備効果

1. 近畿圏と中部圏の連携強化
2. 開通済みの新名神高速道路・京奈和道・第二京阪道路へ接続する重要な連絡路
3. 名神高速道路の代替路の確保

② 神戸西バイパス(第二神明道路北線)

永井谷JCT～石ヶ谷JCT 6.9km

整備効果

1. 物流ネットワーク拡充による東西方向の物流効率化
2. 交通混雑の緩和による第二神明道路の事故減少
3. 第二神明道路の代替路の確保

③ 大和北道路(京奈和道)

奈良IC～郡山下ツ道JCT、奈良北IC～奈良IC 12.4km

整備効果

1. 交通混雑の緩和・交通円滑化
2. 交通の転換による、国道24号の交通事故減少
3. 移動時間短縮による観光行動の支援
4. 沿線地域の整備による産業の活性化

④ 淀川左岸線延伸部

門真JCT～阪神高速道路接続部 1.1km

整備効果

1. ネットワークの拡充による大阪都市圏の交通円滑化
2. 並行する都市高速における通行規制時の迂回路確保及び災害時の避難・救護活動を支える広域的な輸送路としての機能確保
3. 物流の効率化による沿線地域への新たな企業進出等、地域経済の活性化



新名神高速道路 高槻JCT・IC付近



神戸西バイパス 菅野交差点付近



大和北道路 郡山下ツ道JCT付近



淀川左岸線延伸部 門真JCT接続イメージ



ミッシングリンクの解消

2022年12月、国土交通省と共同で整備を進める大和北道路のうち、当社が工事を担当する区間では初となる橋脚が完成しました。大和北道路は、主要都市間を連絡する高速道路が未整備となっている、いわゆる「ミッシングリンク」と言われる区間であり、周辺地域の慢性的な渋滞などが問題となっています。橋脚完成により大和北高速道路が形となって見えてきたことで、地域の皆さまの完成への期待や地域活性化への期待が高まっているのを感じています。地域や行政と連携を図りながら、一日も早い完成を目指します。



関西支社 奈良工事事務所 大和郡山工事区 工事長 木越 健二